



バークバスターズ通信 Vol 2

Presented by Bark Busters Japan

バークバスターズ ジャパンの第二回通信へようこそ!

世田谷区の担当 大倉由季



家族の強い願いで我が家に来てきた黒柴の男の子は、抱っこした私の膝の上でブルブルふるえていました。それまで犬を飼ったことのない私は、これからの日々がまったく想像できず不安な気持ちでいっぱいだったのをよく覚えています。

案の定不安は現実のものになっていきます。トイレはなかなか覚えてくれない、トイレシーツはビリビリに破る、家具はあちこちかじり、飛びつ

き、呼んでも来ない…どうしたらいいのか途方に暮れていた時に会ったのがバークバスターズでした。

それまで私は、どうしたらこの犬が変わってくれるのかと思っていました。彼が突然心を入れ替えて、私の言うことを聞いてくれたらいいのにと願っていたのです。でも、バークバスターズの教えはまず「自分が変わる事」でした。犬が言うことを聞くような飼い主になること！それがレッスンの目標となりました。

いつからでも私たちは変われます。そして、私たちが変わると、ワンちゃんも変わります。そんなシンプルだけど奥の深い事実を我が家の愛犬は私に教えてくれたのです。

今こうして以前の私のように困っている方のお役にたてることをとても幸せに思います。

バークバスターズ設立の秘話

バークバスターズは、1989年にダニーとシルビア ウィルソン 夫妻によって設立されました。奥さんのシルビアは、バークバスターズを始める前はオーストラリアの動物愛護協会(RSPCA)で長くマネージャーを務めていました。日本でもそうですが、オーストラリアでも捨てられる犬がたくさんいます。その理由の多くが、問題行動があって飼えないというものです。シルビアはその捨てられた犬のしつけをして新しい飼い主を探すという事が、たくさんあるうちのひとつとなりました。しかし、広いオーストラリアでもスペースは限られています。場所がなくなってくると、たくさんいる犬の中から安楽死を余儀なくされる犬がでてきます。それを決断するのもシルビアの仕事でした。そして、シルビアはその仕事が大嫌いでした。そのうちシルビアは犬を捨てに来る飼い主に対して、とりあえず犬を連れて帰ってもらうようお願いしたのです。そして仕事が終わった後その人の家に行っつけの指導をするようになりました。しかし、仕事が終わってからの時間は限られているという事に業を煮やした結果、シルビアはRSPCAを退職してバークバスターズをご主人のダニーと設立しました。それ以来、教え切れないワンちゃんの命を救い、飼い主と犬の新しい良い関係を築いてきました。現在はオーストラリアだけではなく、ニュージーランド、アメリカ、カナダ、イギリス、スペインなどにバークバスターズの輪が広がり、シルビアとダニーは飼い主さんと犬達を助けるために世界を飛び回っています。

3.11が起こったとき私たちは仙台でNo.2



宮城県を担当している佐々木夫妻です。

東日本大震災から、1年半が過ぎました。頻繁に続く余震が多く、今も続いています。

ワンちゃんと過ごす飼い主さんからこの頃良く聞いたのが、揺れを感じて震えるワンちゃんの様子。多かったです。そして、だいたい飼い主さんは「怖かったよね!.....大丈夫だからね!」と、よしよしをしていました。それでは、ますます、頼りなく見えてしまいますよ!と話した事を覚えます。わが家のワンちゃん達もしばらくの間、揺れが来るぞ!と感じる度に、敏感に反応してました。「大丈夫!」と、たしなめても、落ち着くまで時間が掛かる事がありました。今は以前より随分と落ち着いています。1つは、余震が少なくなった事もありますが、大事な事は、ワンちゃんと一緒に暮らす、私達の態度行動が落ち着いていれば、安心感となって伝わると言う事です。地震に限らず、花火の音や台風で風がざわめく音などの時も同じです。

私も時には、驚いてパニックになる事もありましたが、ワンちゃんには「私がいるから安心して!」と言うサインをまず見せました。日常的にそれらを意識してますと、習慣となって案外できるようになります。安心できる環境を整えてあげるのには私達飼い主の役目です。(次回に続く)



創設者 ダニーとシルビア ウィルソン



今回のトピック「咬む」 No.2

そして今回は、群れを強くする事から来る「咬む」です。落ちた物をくわえて逃げて行くワンちゃんがあります。そうすると飼い主の方は必ず追いかけてそれを取り戻そうとします。そして手を伸ばして取ろうとすると、ワンちゃんは唸ってガウガウとその手を咬みつきます。どうしてこう言う事をするかというと、ワンちゃんがガウガウする事によって飼い主の方は必ず手を引っ込めてその物を取るのをあきらめるか、餌で釣ろうとします。手をひっこめる事により、ワンちゃんがそのバトルで「勝った」ことになり、餌をもらう事にあります。この物を盗むと言う事に対してご褒美をもらえた事になります。どちらもワンちゃんの思うつぼです。バトルで勝つ

事により、自分が強いんだと飼い主に知らしめることができました。自分が強いと示す事により、群れの中の順番ははっきりとして群れが万が一外から襲われた時にどの順番で戦うのかがわかります。この行動がよく見られるのが、とても強いメスのワンちゃんです。時々何もしていない下のメンバーの犬達に対して、急にガウガウと襲って行きます。しかしその犬達を傷つける事は決してしません。これも自分の強さを知らしめる行為です。ではどうすればこの咬むと言う行為をやめさせる事ができるのでしょうか。怖いから咬むワンちゃんは、ゆっくり優しく声をかけてあげながら、その怖い事が怖くないんだと教えてあげることが大事で



す。ただし、このトラウマとなっている事を怖くないと思わせるには、かなりの時間がかかる事もありますので、気長に続けて下さい。強さを知らしめるために咬むワンちゃんは、飼い主の方がリーダーシップを取らなければいけま

せん。どちらにしても、飼い主の方がワンちゃんから見て信頼される強いリーダーになることが大事です。咬むという問題行動があるワンちゃんは、すぐにお近くのトレーナーを探してトレーニングを始めましょう。

5歳の咬むチワワちゃん

お世話になっております。ブリのママです。初レッスンに来ていただいて2週間、ブリはとってもおこりになりました。吠えない、噛まないはもちろんのこと、顔もとっても穏やかになり、生まれた当時のかわいいブリに戻ったようです。ブリの問題行動に困っていた私は、今まで様々なしつけ教室に通いましたが、結局改善されることはなく、それどころか頑張れば頑張るほど「ブリはどうして私の気持ちをわかってくれないんだ!!」と悲しくなって、時にはブリを腹立たしいと思うことさえありました。でもバークバスターズに出会って『気持ちを伝えるにはブリにわかるように伝えなければ意味がないんだ』と実感しました。どんなに愛情があっても、どんなに努力しても、犬にわかる方法でなければやらない方がまだマシかもしれません。初レッスンから2週

間たった今では、ブリは無駄に吠えることはありません。噛むこともありません。それどころか、お散歩をしていて私が足を止めると、ブリも私の顔を見上げて一緒に止まってくれます。頼れる飼い主として生まれ変われているんだな・・・と思わず感動の涙があふれてきます。ここまですべてを、そして飼い主である私を変えてくださったバークバスターズに心から感謝します。



10歳の咬むコーギーちゃん

10才になるコーギー（愛称 トム）を飼っていますが、ここ5～6年はよく吠え、道路を通る人や犬に向かって吠えたり、チャイムや電話の音にも反応して吠えたりで、近所からのクレームも数回ありました。また、ご機嫌を損なった覚えがないのに噛みつかれ医者に行き行って手当を受けたこと3回。家族皆が1～2

に執着し、吠えて歯をむいたりするので恐怖を感じるようになり、腫れ物に触れる様に扱ってきました。どうかしなくてはと、訓練や躰について家族で何回か話し合っても埒が明かずに方策も尽き、追い詰められていた昨年9月にバークバスターズの柳川さんにお世話になりました。単に叱るのではなく、吠えなくてよい事を分らせること、飼い主が一貫した態度で臨み継続していくことを学び、今では道路を通る人や犬にも吠えなくなり、餌をあげる時に激しく唸らなくなりましたし、散歩の時も上手にトムをコントロールする事ができるようになりました。恐怖心から解放され、夢のような感謝の日々を送っています。本当に有難うございました。

回は引っ掻かれたりしていません。最近1年くらいは特に餌

🐾 問題の種類、年齢は問いません

🐾 便利な自宅でのトレーニング

🐾 ワンちゃんの一生サポーター付き（プラチナのみ）

🐾 数時間で効果が出ます

🐾 どんな問題行動にも効果的、もちろん子犬でもOK

🐾 体罰やおやつなしの画期的な方法

0120-272-109

www.barkbusters.co.jp